



〈 解 説 〉

## ハウノキ

(モクレン科、モクレン属の種、学名：*Magnolia obovata* Thunb、漢字名：朴木、別名：ホオガシワ)

この種は樹高15～30m、胸高直径40～50cm（時に1m）に達する落葉高木です。分布は広く、南千島から日本各地、さらには中国中部の落葉樹林帯に分布しています。明るい場所を好み成長は早いのですが、幹の寿命は短いようです。しかし、株元から多くの萌芽を出して同じ遺伝子をもつ個体が次世代を継ぎますので、結果的には長寿命といえます。葉は大型で長さ20～40cm、幅13～25cm、まとまって枝先に車状につきます。葉や花に強い芳香があり、生の葉で端午の節句の柏餅や粽を包んだり、枯れ葉は味噌を乗せて焼く「朴葉味噌」に利用されてきました。5月～6月にかけて直径15cm前後の大型で淡いクリーム色の花を付けます。10～11月になると多数の袋果の集合体である果実をつけ、熟すと中からのびた細い紐の先に赤い種子がぶらさがります。材は柔らかく緻密であるために用途が広く、下駄の歯、刀の鞘、版木としても利用されました。また、樹皮は健胃や下痢止めとして、果実は腹痛止めとして利用されました。樹木の中でこれほど人に利用されてきた種はないかもしれません。

(農学部教授 福 嶋 司)